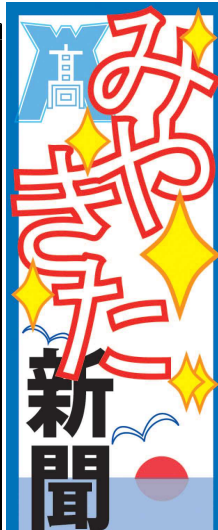


夏休み終了！学校再開！前期末考査直前！

8月19日（月）に始業式が行われ、学校が再開しました。

冬休みまで約4ヶ月、個人としても学校としても重要な出来事が数多くあります。お互いに切磋琢磨し、励まし合いながら頑張らしましょう。



8月号

令和元年8月20日発行
岩手県立宮古北高等学校

『みやきた新聞』は、地域の方々に宮古北高等学校をもっと知っていただくために発行を開始した情報発信紙です。勉強や様々な行事に生き生きとがんばっている生徒の姿をご覧ください。

始業式において熊谷校長先生から「あきらめる（諦める）の語源について講話がありました。私たちは「仕方がない」と思いすぎる断念する」と考えがちですが、語源を調べると「物事の真実を見抜いて明らかにすること」とある。最善を尽くして今の自分の真実（力量）を見極めて、次の希望に向かって突き進むことであり、中途半端に投げ出すことではない。自分自身の可能性を見極めることこそ大切である。自分自身と向き合うことに取り組みしましょう。



8月宮北の森

- (1) 8月各学年生活目標
- (2) 深山先生スピーチ「出会いが自分を変える」
- (3) 小規模校サミット報告（鈴木勇氣君 佐白玲史君）
- (4) 青山学院高等部交流報告（生徒会）

各ホームルーム委員から今月の生活目標が発表され、3年成田さんから挨拶の励行の取組について提言がありました。

深山先生からは、高校時代の震災ボランティアでの出会いが自分の進路を明確にした。高校時代の多くの経験と出会いを大切するようにとアドバイスがありました。

小規模校サミットに参加した佐白君は、他校の地域交流活動を参考にしたいとの報告がありました。

青山学院高等部との交流に参加した生徒会からは、NPO東京オリンピックが復興オリンピックとなっていることに温度差があり、その課題にどのように向き合っていくかについて報告がありました。



全校遠足（震災学習列車活用スクール） 7月19日（金）実施

今年は三陸鉄道の震災学習列車を活用し、釜石市鵜住居の「いのちをつなぐ未来館」、山田町の「鯨と海の科学館」を訪れ、復興教育を主体とした遠足を実施しました。防災意識を高め、震災を風化させないようにする上で、貴重な経験をしました。生徒一人ひとりが震災を語り継ぐ者として自覚を持ちましょう。



青山学院高等部との交流会

八月二日（金）東京の青山学院高等部から生徒15名、教員3名の方々が本校に來校しました。今年で五年目の交流事業となりました。本校からは、新入生、生徒会の12名の生徒が参加しました。昼食を食べながらお互いに自己紹介をし、スポーツ交流では、シャトルキャッチを行い、楽しく交流できました。スポーツ交流後は、「東京オリンピックについて」をテーマにグループで話し合い、互いに立場が違ふことで、いろいろな意見が飛び出し、参加した本校の生徒に刺激となりました。

九月十三日（金）から十五（日）まで本校の生徒会7名の生徒が東京の青山学院高等部の文化祭に参加します。なお、その文化祭では、田老の海産物等の販売も行い、宮古市田老地区をアピールしていきます。



職場体験学習

7月23日（火）～7月25日（木）にかけて、2年生が管内の企業で職場体験学習を行います。職業観の構築に取り組みました。いつもとは、立場が違ふお店の側から仕事内容を知ることができ、これからの進路選択に生かすことができます。

